

令和4年度

道 徳

会報 No. 18

夢に向かって 自分らしく 生きる子どもたち

日々の道徳科の授業の悩みに答える
「道徳科についてのQ&A」を掲載（P32）

名古屋市道徳研究会

目 次

は じ め に

令和4年度 名古屋市道徳研究会 全体テーマ	P. 1
授業づくり研究部会	P. 2
テーマ研究部会	P.20
本年度のあゆみ	P.29
合同学習会	P.30
道徳科についての Q&A	P.32

あ と が き

はじめに

道徳の教科化がスタートし、小学校が5年目、中学校は4年目を迎えました。

昨年度、教科化になって初めて、教員を対象とした道徳教育実施状況調査を文科省が行いました。

「教科化になって何が変わったか」という問いに対して一番多かった答えが、「道徳教育に対する教師の意識が高まった」です。以下、「授業時間を十分に確保して指導することができるようになった」、「他教科に比べ、道徳の授業が軽視される風潮がなくなった」と続きます。

これは、とてもうれしい変化です。それぞれの学校が変化してきています。

道徳科の授業をお互いに見合っ、授業力を高め合おうとしている学校があります。

学校・学年行事に道徳科の授業を意図的に関連させている学校があります。

全校道徳など、学級や学年の枠を飛び越えて授業実践している学校があります。

そして、そのような学校で学ぶ子どもたちは、道徳科の授業の楽しさを知り、「もっと道徳やりたい!」という思いをもちます。

そして、そんな子どもたちを教える先生方は、道徳科の授業の奥深さを知り、「子どもたちは、何を考え、どんな意見を発表するのだろうか」と、授業実践を楽しみにします。

名古屋市道徳研究会は、「子どもたちが本気で考える道徳科の授業をしたい!」「道徳科の授業の技をもっと身に付けたい!」という、熱い思いをもった教員の集まりです。目の前の子どもたちの「笑顔と学び」を引き出すことができるような道徳科の授業を求めて、部員同士が高め合っています。

今年度は、授業で困り感を感じている子どもも含めてみんなが参加できる授業を目指した「授業づくり研究部会」と、活発な議論を通して考えを深めていくことができる授業を目指した「テーマ研究部会」に分かれて研究を進めてきました。その研究の成果をまとめたものがこの会報です。

先ほどの文科省調査の中で、「道徳科の授業を実施する上での課題は何か」という設問に対して一番意見が多かったのは、「話合いや議論などを通じて、考えを深めるための指導」です。この会報が、みなさんの課題解決のための一助になれば、こんなにうれしいことはありません。

本研究会の研究推進と会報の刊行に際し、ご指導、ご協力をいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。

令和5年1月

名古屋市道徳研究会顧問
名古屋市立森孝東小学校長
服 部 豊

1 全体テーマ

夢に向かって自分らしく生きる子どもたち

2 テーマの主旨

日々の生活の中で、子どもたちは明るい笑顔を見せます。また、子どもたち一人一人が夢に向かってひたむきに努力する姿に、私たちは人間としての美しさを感じます。このような夢に向かって自分らしく生きる子どもたちの姿は、未来への希望そのものです。そして、教師、保護者や地域の人々は、このような子どもたちの姿にふれ、明日への活力をもらうこともあるはずです。私たちは、子どもたち一人一人が笑顔をやさしくなく、夢に向かって日々歩み続けていってほしいと願っています。

さて、「特別の教科 道徳」は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標にしています。道徳教育の要となる道徳科の授業は、全ての子どもが笑顔で参加し、仲間とともに学び合う中で、これからの生き方を思い描く時間です。学級の子どもたちは、実態や興味・関心、生活環境等により、得意なことや苦手なことが違ったり、考え方が違ったりします。道徳の授業に対しても、「議論をするから楽しい」「道徳の授業は気持ちがいい」と感じて、多くの学びを得ている子がいる一方、「物語の内容が分からない」「伝えたいことをうまく言葉にできない」と感じ、道徳科の授業に苦手意識を感じている子もいます。

私たちは、道徳科の授業を、すべての子どもたちにとって自分の生き方について考えることができる時間にするため、実態や興味・関心、生活環境の違いを考慮して、研究を進めていくことが必要不可欠であると考えました。そこで、今年度は、子どもたち一人一人の実態に応じた授業について考える「授業づくり研究部会」、興味・関心や生活環境に応じた考えを引き出した上で、議論を生み出す手立てや授業展開について考える「テーマ研究部会」の二つの部会に分けて、それぞれ研究に取り組むことにしました。

今年度も、私たち名古屋市道徳研究会は、道徳教育を通して一人一人の子どもたちが心を輝かせ、人としてよりよく生きていこうと考える姿を、「夢に向かって自分らしく生きる姿」と捉え、実践を積み重ねていきたいと考えています。



授業づくり研究部会

誰もが安心して考えることができる道徳科の授業

— 実態に応じた個別最適な支援を通して —

I テーマ設定の理由

昨年度より、2020年代を通じて実現を目指す学校教育の姿として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することが、中央教育審議会から示されました。本研究部会においても「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」をテーマとして研究・実践を進めてきた結果、新たな授業展開や指導方法が多く生まれました。

しかしその中で、本来学びの補助となる新たな授業展開や指導方法が、一部の子どもの困り感につながってしまったり、元々道徳科の授業の中で困り感をもっていたりする子どもがいることが分かりました。特に個別最適な学びを進める上では、これまで以上に教師が子どもの困り感の理解と実態把握に努め、きめ細かく支援していく必要があると考えます。「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」においても「発達障害等のある児童生徒や海外から帰国した児童生徒、日本語習得に困難のある児童生徒等に対する配慮」が求められており、子どもの学習における困難さを想定した上で、指導上の工夫をする必要性が述べられています。

そこで本年度、授業づくり研究部会では「誰もが安心して考えることができる道徳科の授業」を目指して、子ども一人一人の実態を把握した上で、その実態に応じた個別最適な支援を授業に取り入れた研究を進めていくことにしました。

II 誰もが安心して考えることができる道徳科の授業にするために

道徳科の授業は、誰もが伸び伸びと自分の考えを表現し、議論できる場であってほしいと考えます。しかし実際は、学習における様々な困り感を抱えてしまうことが原因となり、道徳科の授業において、安心して考えることができない子どももいます。



お話の内容が分からない

伝えたいことはあるけど、うまく言葉にできない



このように、「教材文の内容がよく分からないため考えることを諦める」「自分の考えをうまく伝えられないから発言しない」など、様々な困り感を抱える子どもへの支援に悩んだ経験があると思います。では、誰もが安心して考えることができる道徳科の授業にするには、どのような手立てや活動を取り入れるとよいのでしょうか。

本研究部会では、まず道徳科の授業における学習活動において、困り感の実態把握を行い、部会の中で共有しました。その上で、それぞれの学級における様々な困り感の実態に応じて、どのような個別最適な支援が有効であるかを話し合い、授業の中に取り入れていくことにしました。そうすることで、子どもの困り感を軽減し、学級の誰もが安心して考えることができる授業となると考えました。

Ⅲ 実態に応じた個別最適な支援とは

部会において、子どもの困り感を共有すると、どの学級においても、「教材を理解する」「考えを共有する」「考えを表現する」という3つの活動における困り感が多いことが分かりました。そこで本部会では、それぞれの困り感に応じた支援について、下記のように考えました。

困り感の実態に応じた個別最適な支援の例

○ 教材を理解する際

子どもの困り感の例	個別最適な支援の例
物語の流れが分からない	→ スライドショーにして教材を提示する
登場人物の関係が整理できない	→ 登場人物の関係を図式化する
教材の言葉の意味が分からない	→ スライドにした教材に注釈を入れる

○ 考えを共有する際

子どもの困り感の例	個別最適な支援の例
恥ずかしくて発言できない	→ ネームカードで意思表示する
仲間の考えを理解できない	→ 円グラフやスケールを活用する
自分の考えを整理して伝えることができない	→ シンキングツールを活用する

○ 考えを表現する際

子どもの困り感の例	個別最適な支援の例
何を書いてよいか分からない	→ 書き始めの話型を提示する
記述して表現するのが難しい	→ 表情絵やイラスト、色で表現させる
短く表面的な言葉で終わってしまう	→ 登場人物への手紙形式で記述させる

このような個別最適な支援を取り入れた「誰もが安心して考えることができる道徳科の授業」を提案します。

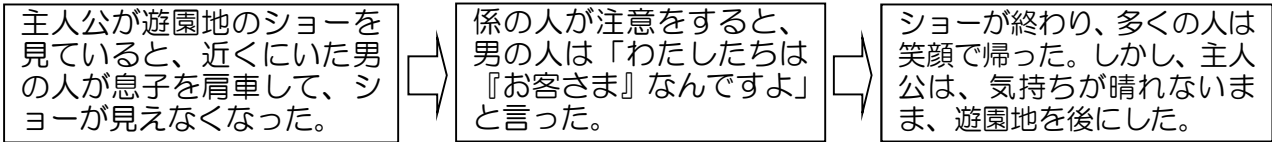
きまいの意義や大切さとは

小学5年生
C 規則の尊重

【教材名】 お客様（出典：きみがいちばんひかるとき 5年 光村図書）

【ねらい】 きまりは何のためにあるのかを考え、その意義や大切さに気付くことを通して、必要なきまりを進んで守ろうという実践意欲を高める。

【教材の概要】



道徳科における個別最適な支援

教材を理解する際の支援

物語の流れが分からない

場面絵を利用してスライドショーを作成します。動きや音楽などで視覚的にも聴覚的にも、物語を理解できるようにします。

考えを共有する際の支援

言葉や文字で表現することができない

登場人物の気持ちについて、表情絵を提示して選択させることで、自分の考えを表現することができるようにします。

仲間の考えを理解できない

表情絵をロイロノートの共有画面で表示することで、児童の考えを素早く共有し、互いの考えを比較できるようにします。

話し合いの中で発言することができない

話し合いの前にペアで対話をさせることで、仲間の考えを取り入れた上で考えをもつことができるようにします。

考えを表現する際の支援

記述して表現することが難しい

イラストカードを使って、記述ではなく、言葉で伝え合う場面を設けることで、自分の考えを表すことができるようにします。

【学習の過程】（T…教師、C…児童）

導入

○ きまりを守ることにについて、具体的な場面のイラストを見て考える。

T：みなさんは、町の中で、こんな場面を見たら、どう思いますか。



C：だめだって思う。

C：注意書きに書いてあるからサッカーもだめ。

C：並んでいないからだめ。



【場面①】 ラーメン屋の行列に前のお客さんが友達を横入りさせている



【場面②】 サッカーがうまくなるためにボール遊び禁止の公園で練習している

展 開

○ スライドショー形式で、教材の範読を聞く。

T: はじめはみんなショーを楽しみにしていますね!

教材を理解する際の支援

T: あれ? 男の人が、何か、係の人に言っていますね。



C: 今日は遊園地のお話なんだ!

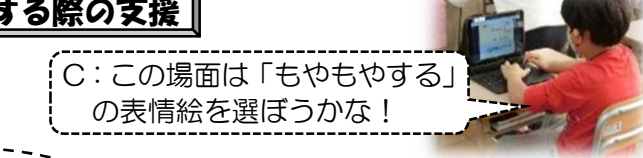
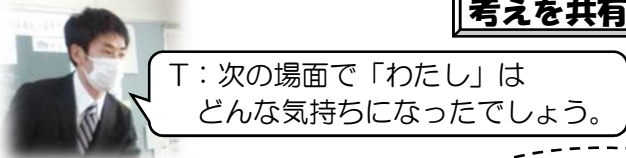


C: なんかわがままだなあ...

〈考察〉 動きや音楽などで臨場感を出して、登場人物の動きを解説しながらスライドショーを流していった。児童は、教材の内容を視覚的にも聴覚的にも捉えることができ、うなずいたりつぶやいたりしながら、興味をもって話を聞く様子が見られた。

○ 主人公のわたしが、どんな気持ちになったのかを考えて、表情絵で表す。

考えを共有する際の支援



遊園地に来たとき

全員の考えを表情絵で共有

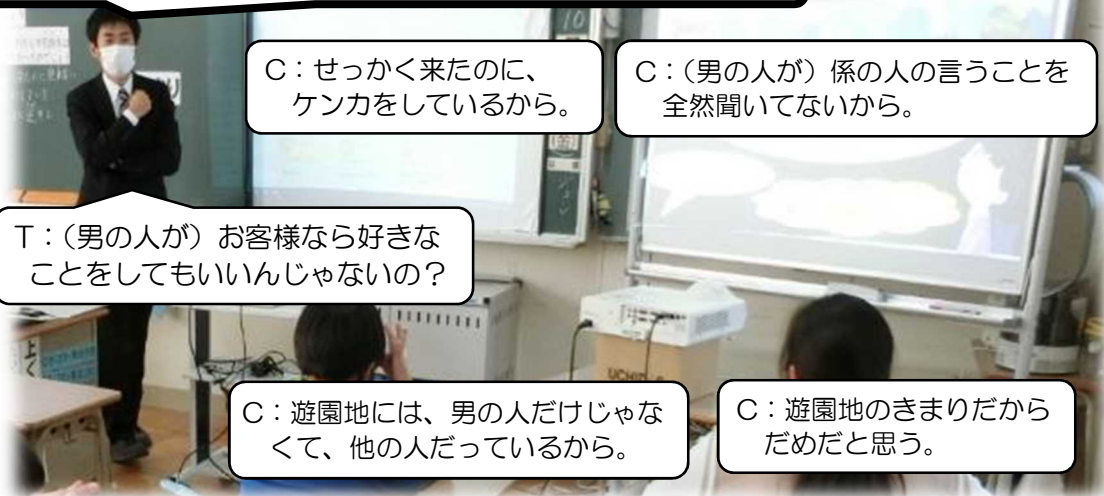
男の人が肩車をしたとき

<p>すごくうれしい</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>遊園地に来て好きなキャラクターのショーが見れるぞ</p>	<p>すごくうれしい</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>わくわくする</p>	<p>もやもやする</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>せっかく見に来たのにショーが見れない</p>	<p>すごくかない</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>楽しみに見に来たのに見れないから</p>
<p>すごくうれしい</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>遊園地たのしー</p>	<p>うれしい</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>楽しみにしていたショーを見れるから</p>	<p>かない</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>楽しみにしていたのに、全く見れなくなったから</p>	<p>もやもやする</p> <p>ここに書きましょう</p> <p>悲しい気持ちになっているかも</p>

〈考察〉 表情絵を活用して主人公の気持ちを考えさせたことで、言葉や文字で考えを表すことが苦手な児童も、自分の考えを伝えることができた。

○ わたしの気持ちが晴れなかった理由について考えて、話し合う。

(中心発問) T:なぜ、わたしの気持ちは晴れなかったのでしょうか。



C: せっかく来たのに、ケンカをしているから。

C: (男の人が) 係の人の言うことを全然聞いてないから。

T: (男の人が) お客様なら好きなことをしてもいいんじゃないの？

C: 遊園地には、男の人だけじゃなくて、他の人だっているから。

C: 遊園地のきまりだからだめだと思う。

〈考察〉 隣の席のペアで簡単に対話をさせた後に話し合いをさせたことで、自分の考えがまとまらなかった児童が仲間の考えを取り入れ、自分の考えをまとめることができていた。この場面では、全員が考えをもった上で全体の話合いに臨むことができた。

○ 全ての人が笑顔でいるためには、どんなことが大切なのかを考える。

T: みんなが笑顔になるためには、どんな考えが大切なのでしょう。



考えを表現する際の支援

C: (自分の立場なら) みたいな言葉をふせんに書きたいな…。



アドバイスをし合い、グループで共有ノートを作成

1

ちゃんとルールを守っていく	きまりを守って譲り合う。一人一人の思いを考える。
自分がされた時のことも考える	やっちゃいけないことをしないように、きまりをまもる。

C: つまり、「自分がされたとき」のことも考えるってことだね。



T: では、みんなの考えを見てみましょう！

考えを共有する際の支援

<p>1</p> <p>ちゃんとルールを守っていく</p> <p>きまりを守って譲り合う。一人一人の思いを考える。</p> <p>自分がされた時のことも考える</p> <p>やっちゃいけないことをしないように、きまりをまもる。</p>	<p>2</p> <p>一人一人思いやりをもって周りの人の事を考える</p> <p>みんなでルールを守らせる</p> <p>みんながルールを考えながらすごす</p>
<p>3</p> <p>他の人に迷惑がかからないようにする</p> <p>ちゃんとみんなきまりを守ってみる。自分だけじゃないと自覚する。</p>	<p>ほかのお客さんもみていることを自覚して気をつけてみる</p> <p>みんながみえるように、とちゅうでかんがえる。</p>

きまりの意義を表情絵で板書に表す



T: みんなが書いたことを意識すればこんな風に笑顔が増えるね！

全員で作成したノートを共有

終末

○ 自分自身との関わりの中できまりに対する考えを広げる。

T: (導入で考えた場面で)
「どうしてきまりはあるの」
と聞かれたら、みなさんは何と
答えますか。



T: 吹き出しのに入ったイラストカード
を使って、ペアの人に考えを伝えま
しょう。

考えを表現する際の支援

吹き出し入りの
イラストカードで
自分の考えを表現



C: 並んでいる人が、もやもやしたり、
悲しくなったりイライラしたりしない
ようにするためにきまりはあるんだよ。



【イラストカード①】

ラーメン屋の行列に前のお客さんが友達を横入りさせている



C: 子どもや大人、みんなが楽しく安全に
遊べるようになるために、きまりはあ
るんだよ。



【イラストカード②】

サッカーがうまくなるためにボール遊び禁止の公園で練習している

〈考察〉 吹き出し入りのイラストカードを使って言葉で伝え合うようにしたことで、記述することが苦手な児童も、イラストを指差して説明するなど、一人一人が自分に合った方法で、きまりの意義についての考えを表現することができた。

【授業研究（公開授業）の成果と課題】（○：成果、●：課題）

- スライドショー形式で教材を読んだことで、今までの授業では教材を理解することに
困り感を抱えていた児童が、教材の内容を正確に理解することができた。その理解を基
に、自分の考えをもって授業に参加することができた。
- 表情絵やイラストカードを活用することで、今までの授業では言語による記述や会話
に困り感を抱えていた児童が、自分に合った方法で考えを表現していた。表現方法が選
択できることで、自分の考えを表しやすく、友達に伝えることができた。
- 考えを共有する際に、ICT を活用してグループで考えを共有したが、一部の児童は、
言語表現に戸惑う様子が見られた。共有画面を活用して、考えを比較できるようにした
上で意見交流をするなど、より困り感を軽減する支援を取り入れる必要がある。


【教材名】 だれにでも やさしい 町に（出典：あかるいところ 1年 県教育振興会）
 【ねらい】 バリアフリー設備にこめられた思いに気付くことを通して、身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

【教材の概要】

遠足で東山動物園に行く際に、地下鉄のホームや横断歩道で音が聞こえる。

愛知県図書館で様々なすを見つけ、「バリアフリー」について知る。

バリアフリーを見付けたいと思うと同時に、誰にでもやさしい町になってほしいと思う。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・教材に出てくるものが分からない	→ ☆実際に音を流して提示する
考えを共有する際	・仲間の考えを理解できない	→ ☆インタビュー形式で考えを共有する
考えを表現する際	・何を書いてよいか分からない	→ ☆考える場面を選択させる

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

○ 「やさしさ」について、自分たちの今の考えについて話し合う。

展開

T：それぞれの工夫には、どんなやさしい思いが込められているでしょう。

C：目が不自由な人へのやさしさ

T：それぞれの工夫に、どのような思いが込められているか、友達にインタビューをして聞きましょう。

C：音の出る信号には、どんな思いが込められていますか。

C：いろいろな人が困らないようにするやさしさがあると思った。

終末

T：今日の学習を通して、自分にもできそうなやさしさについて考えましょう。

C：知らない人でも困っていたら教えてあげるようにしたい。

☆実際に音を流して提示

教材に出てくる、地下鉄のホームで聞こえる音や東山動物園前の音響式信号から聞こえる「おうまのおやこ」の音を、スライドの写真を提示しながら聞かせることで、教材に出てくる設備のイメージをつかみやすくさせた。

☆考える場面を選択する

考えを表現するのが苦手な児童への支援として、思考場面を複数提示した。今回の実践では、5つの写真を提示して、その中から、自分が一番考えやすいものを選択できるようにした。



☆インタビュー形式で考えを共有する

短時間で、多くの考えを交流するために、考えを記入した道徳ノートをもって交流を行い、発表よりも短時間で多くの考えにふれることができるようにした。



【実践を振り返って】

実際に音を流したことで、児童は教材に出てくるものを具体的にイメージすることができ、自分自身との関わりの中で考えを深めるために効果的であったと感じた。また、考える場面を選択させたことで、自らの考えをたくさん表現することができた。多面的・多角的に考えることができるようにするために、終末に道徳ノート等でまとめた考えを交流する時間も確保していきたい。

【教材名】 お月さまと コロ（出典：きみがいちばんひかるとき 2年 光村図書）

【ねらい】 友達に素直に謝ることができずに悩むコロの姿を通して、明るい心で過ごすためにはどうすればよいかを考えさせ、いけないことをしてしまったら素直に謝り、伸び伸びと生活しようとする実践意欲と態度を育てるようにする。

【教材の概要】

コロは思い通りにならないと、怒ったり文句を言ったりするので、友達が減ってしまった。

唯一の友達のギロも怒らせてしまうが、素直に謝れない。そんなコロにお月さまは、歌を歌うように促す。

お月さまに素直な明るい声だとほめられたコロは心が晴れ「明日はギロくんに謝ろう」と心に決める。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援
教材を理解する際	・物語の流れが分からない	☆動きを取り入れた場面絵を提示
考えを表現する際	・振り返りで自分の考えが書けない	☆観点を意識させた手紙形式の記述

【実践について】(C…児童 T…教師)

＜授業の流れ＞

導入

○ 教師の幼少期の経験を話す。

展開

T：ギロを怒らせてしまったのに、なかなか謝りに行けないのは、なぜでしょう。

※ 場面絵の背景の色に注目させた上で発問する。

T：なぜ、こんなにもやもやした気持ちで夜になるまで悩んでいるのでしょうか。

C：自分が悪いことをしていると分かっているから、もやもやしていると思う。

T：それでも、ギロに謝ろうと決めたのはどうしてでしょう。

C：コロが、暗い顔をしていたから。

T：どうして心が晴れ晴れしたのかな。

C：お月様に言われて歌ったから。

T：コロはどうすればよかったと思いますか。

C：素直に謝ればよかった。

C：気持ちをよく考えればよかった。

終末

○ コロに手紙を書く。

C：コロくんを見て、ぼくも友達のことをよく考えて言葉を伝えたいと思ったよ。

☆動きを取り入れた場面絵の提示

教材を理解させるために、表裏両面に場面絵を印刷した資料を提示する。教材を読み聞かせる際に、その場面絵を裏返して状況の変化を示したり、場面絵を動かして様子を表したりすることで、詳しく教材を理解することができる。



☆観点を意識させた手紙形式の記述

主人公に向けての手紙を書くことで本時に考えたことを記述させる。記述する際は、観点マークに○をつけさせるようにした。自分が書きたい内容を明確にしてから文を記述することで、記述にとりかかりやすかった。



【実践を振り返って】

手紙を書かせることで、低学年の児童でも自分自身との関わりの中で考えを深めることができていた。考えを書くことが苦手な児童には、どんな観点で手紙を書きたいか、観点マークに○をつけて焦点化させることで、自分自身のことと関わらせて記述させることができた。

【教材名】 ぐみの木と小鳥（出典：きみがいちばんひかるとき 2年 光村図書）


【ねらい】 病気のりすに、嵐の中でもぐみの実を届ける小鳥の姿を通して、親切にしたりされたりすると、どんな気持ちになるかについて考えさせ、身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心情を育てる。

【教材の概要】

りすが姿を見せないのので、小鳥がりすの所に行くと思病気で寝ていた。

小鳥は毎日りすを訪ねた。ある日、小鳥は、嵐の中、りすにぐみの実を届けた。

りすは感謝し、「小鳥がしたことは忘れない」と言う。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・物語の内容を捉えられない	☆導入でクイズを出す
考えを共有する際	・自分の考えを整理できない	☆ポジショニングを活用する
考えを表現する際	・何を書いてよいのか分からない	☆ペープサートを使い発表させる

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

○ 親切についてクイズをする。

展開

T：小鳥はなぜ、りすの様子を見に行こうと思ったのでしょうか。

C：会いたいから。 C：心配している。

T：小鳥は嵐の音を聞きながらどんなことを思っていたのでしょうか。

C：大丈夫かな 嵐がすごいな。

C：りすさんと約束しているな。

T：あなたが小鳥だったら、嵐の中どうしますか。

C：行くかどうか迷ってしまう。

T：りすさんに「嵐の中来てくれてありがとう」と言われた小鳥はどんなことを思っていたのでしょうか。

C：嵐の中、ぐみの実を届けてよかった。

終末

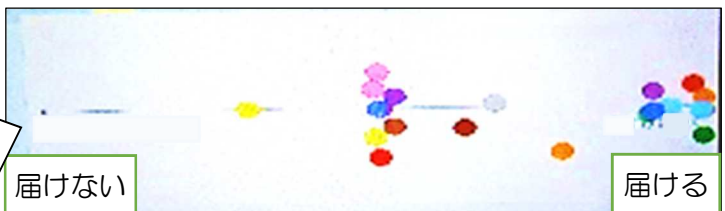
○ 1年生と遊んでいる画像を見て、親切にすることのよさに気付く。

☆クイズをして、身近なこととして捉えさせる



「席を譲ることは親切でしょうか。」「テストの答えを教えることは親切でしょうか。」とクイズのように聞き、自分の普段の行動を見つめ直す。

☆ポジショニングを使い気持ちを揺さぶる



自分の考えをスクイメニューのポジショニング機能を使い表現させた後、その理由を発表させ、考えを共有する。自分の気持ちに変化があったらマーカーの位置を変え、視覚的に気持ちの変化を表すことができる。

☆ペープサートを使った発表



ペープサートを使い、発表させたことで、登場人物の気持ちに寄り添いながら教材の内容を理解させることができる。

【実践を振り返って】

自分の考えをもちつつ他者の考えを知ることにより、自分の考えを広げることができた。ポジショニング機能を用いた場面で理由も発表させたことで、友達の考えを知り、親切について多面的に考えることができた。今後はグループでの話し合いも取り入れ、考えを深めていきたい。


【教材名】 おでこのあせ（出典：きみがいちばんひかるとき 2年 光村図書）
 【ねらい】 通学路のごみ拾いにやりがいを感じるようになったあつしの姿を通して、一生懸命に働くことのよさについて考えさせ、みんなのために働き、役に立つとする心情を育てる。

【教材の概要】

あつしは父と地域の清掃活動に参加するが、初めはやる気が出なかった。

父や友達の真剣な様子を見たり、近所の人から声を掛けられたりして、一生懸命に働き始めた。

ごみ集めが終わるとみんな笑顔で、あつしも働く気持ちよさを感じた。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・物語の流れが分からない	☆教材をスライドショーにして提示する
考えを表現する際	・自分の考えを記述して表現することができない	☆スケールを使用し、簡単に人物の感情を表現できるようにする

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

T：家や学校でみんなはどんなお仕事をしていますか。

C：風呂掃除。家族みんなが夕方忙しいから。

展開

T：あつしくんが最後に笑顔になれた理由を考えてみましょう。

C：一生懸命に仕事をしてよかったと感じているから。

T：スケールに表すと、どのあたりかな。

C：一番右に●を付けました。

C：たくさんの方が笑顔になって、自分もうれしくなったから私も一番右に●を付けました。

終末

T：今日の授業で考えた働くことのよさとは、どのようなものですか。

C：自分もいろいろな人も笑顔になれる。

☆教材をスライドショーにして提示



児童の反応を見ながら補足説明をすることで、教材の内容を理解しやすくする。

☆スケールを使った表現

○あつしくんの場面ごとのえがおメーターに●をつけよう。

ごみ集めの前のとき



お父さんと友達がごみを集めているのを見ているとき



場面ごとの登場人物の心情を、スケールを用いて考えを表現しやすくする。そうすることで、登場人物の心情を整理することができ、その後の発問に対して自分の考えを出しやすくする。

【実践を振り返って】

スライドで教材を提示したことで教材理解を補助することができた。スケールを活用したことで子どもは自分の考えを視覚的に捉え、明確にすることができた。また、どうしてその位置に●印を付けたか発表し合うことで、働くことのよさについてたくさんの考えを知ることができた。

【教材名】 あいさつ名人（出典：きみがいちばんひかるとき 3年 光村図書）


【ねらい】 挨拶が苦手だというせいやくんこそ、本当の「あいさつ名人」だと気付いた「ぼく」の姿を通して、相手に対する真心をもって接することの大切さについて考えさせ、相手の立場や気持ちに応じた挨拶や言葉遣いをしようとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】

大きな声で挨拶をする「ぼく」は「あいさつ名人」と呼ばれ、ある朝、おばあちゃんに会う。

「ぼく」は大きな声で挨拶をしたが、せいやくんはおばあちゃんのけがにも気付く。

おばあちゃんを気遣う言葉を掛けたせいやくんこそ、「あいさつ名人」だとぼくは思った。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・物語の流れが分からない	☆登場人物の特徴を場面絵で確認する
考えを共有する際	・友達の発言の意図が分からない	☆経験を想起させる問い返しをする
考えを表現する際	・自分の考えがまとまらない	☆思考ツールを活用する

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

T: 「あいさつ名人」がする挨拶とはどんな挨拶でしょう。

C: 元気で大きな声を出す。
(MY エリアに記入)

展開

T: ぼくとせいやくんの挨拶の、それぞれのよさは何でしょう。
(左右のエリアに記入)

C: ぼくは元気がいい。
C: せいやは、体のことまで気遣っている。

T: みなさんも似たような経験はありますか。

C: あいさつ運動のときは元気にした。
C: 病院にお見舞いに行ったときは、体調のことも気遣った声を掛けたことがある。

終末

T: 本当の「あいさつ名人」になるために大切にしたいことは何ですか。
(LAST エリアに記入)

C: 相手を見て、自分の気持ちを伝えたい。
C: 相手のことを思いやった声も掛けたい。

☆登場人物の特徴の確認

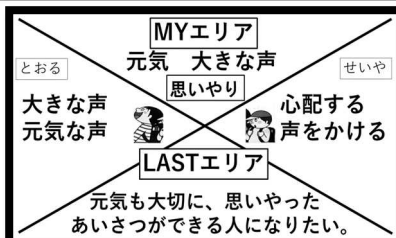
場面絵を使い、登場人物それぞれの挨拶のよさを確認してクロスチャートに板書する。

☆経験を想起させる問い返し

教材の内容と児童の実態がかけ離れないように、
・「同じような経験はありますか」
・「みんなの挨拶は登場人物のどの挨拶に近いですか」
といったような児童の経験を想起させる問い返しを行う。児童には自分の経験を語ったり、似たような経験には賛同したりするようになる。

☆思考ツールの活用

挨拶をするときに大切なことをクロスチャートの中から選ばせ、終末の自分のまとめのヒントにさせる。本時を通して順番に書き込んでいく。



MY エリアには最初の考えを、LAST エリアには終末の考えを書かせる。児童の考えの広がりや深まりが見られる。

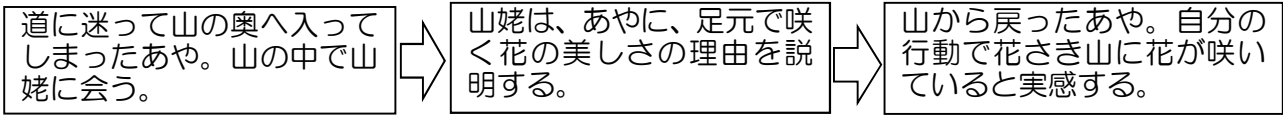
【実践を振り返って】

児童の発言の背景にある経験を問い、共有することで挨拶に対する見方や考え方を広げることができた。また、思考ツール（クロスチャート）を活用したことで、挨拶に対する考えを見比べることができ、自分自身と関わらせながら考えをまとめることへとつながった。

【教材名】 花さき山（出典：きみがいちばんひかるとき 4年 光村図書）

【ねらい】 優しいことを一つすると一つの花が咲くという花さき山を巡る物語を通して、美しい心について考えさせ、美しさを感じ取る心を大切にしようとする心情を育てる。

【教材の概要】



	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・教材文が長く集中力が続かない	☆教材をスライドにして提示する
考えを表現する際	・自分の意見に自信がもてない	☆板書に全員分の花の形を載せる

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

○ 美しいものについて、自分たちの今の考えを話し合う。

展開

T：美しさを感じ取ることができる心とは、どのような心なのでしょう。

C：優しい人。

C：思いやりのある人。

C：いい心をもっている人。

C：いつも笑顔な人。

終末

T：花さき山に花を咲かせられるのは、どんな人でしょう。

C：特別なことではなくて、当たり前のこと感謝することができる人。

C：普段は気付かないことに目を向けて、素直に受け止めることができる人。

C：みんなの意見を見ると、自分にも、そしてクラス全員にも、そういう心があるかもと思えた。

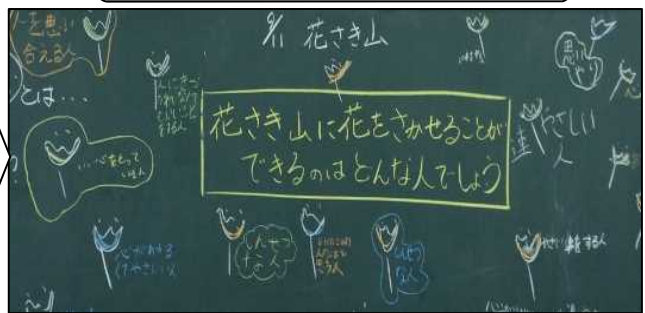
☆教材をスライドにして提示する

場面絵を取り入れたスライドショー形式にして、教材文を読み聞かせる。

難しい言い回しの言葉などは、平易な言葉に言い換えることで、日本語の聞き取りに困り感を感じている児童も、教材を理解することができる。

また、あらかじめ図書室で絵本版を借りて、教室に提示しておくことで、視覚的に理解が進み、教材について考えやすくなる。

☆板書に全員分の花の形を載せる



教師が、黒板に児童の人数分の花の絵を描き、そこに、それぞれが考えた、美しさを感じ取る心についての考えを書かせる。

黒板に書いて自分の考えを表すことで、自分の考えに自信がもてない児童も、積極的に自分の考えを表現することができる。

【実践を振り返って】

本文を読み聞かせた後に、言葉の意味の確認も兼ねてスライドショーで提示した。児童から、「なるほど」「短くて分かりやすい」という声があがった。全員分の花の形を板書したことで、全員が考えを表すことができた。教材の内容から「優しい人」という意見が多数になることが想定されるものの、全員分を見ることができ、「思いやり」「笑顔」など、「優しい」だけではない部分にも目を向けることができた。


【教材名】 ドッジボール対決（出典：きみがいちばんひかるとき 5年 光村図書）

【ねらい】 友達の言葉を聞いて動揺する「ぼく」の気持ちを捉える活動を通して、互いに高め合う友情について考え、団結しようとする実践意欲と態度を養う。

【教材の概要】

「ぼく」が所属する5年2組は仲が良い。ある日、友達である1組の都に、2組の団結力がうらやましいと言われる。そこで、互いのクラス団結力を高めるために、ドッジボール対決をしようと提案する。

作戦会議をしている中で、2組では、対決まで1組とは話さないことが決まった。「ぼく」は何か変だと感じながらも、それを承諾してしまう。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・教材の内容が分からない	☆教材をスライドにして提示する
考えを共有する際	・全体場で考えを発表することに自信がない	☆生活班で考えを共有してから発表させる
考えを表現する際	・自分の考えを言語化できない	☆友達の意見を参考にさせる

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

T:「団結する」とは、どういうことですか。

C:協力すること。C:心を一つにすること。

展開

T:なぜ、「ぼく」は、1組とは話さないことに承諾したのでしょうか。

C:団結しないとイケないから。

C:敵だから。

T:「真くんのクラスの団結って、そういうものなの？」と友達に言われたとき、「ぼく」は何を考えていたでしょう。

C:ぼくたちは、団結していないかもしれない。

C:団結って何なんだろう。

終末

T:「団結する」とは、どういうことですか。

C:みんなで意見を出し合い、賛成に納得できたら団結しているということだと思ふ。

☆教材をスライドにして提示

スライドショーで提示をしながら、教材と出会うことで、文字を追うことが困難な児童や集中力が続かない児童に内容の理解を促す。

☆生活班で自信をつけて、全体で共有

学校生活の様々な場面で、共に活動している生活班の友達と、先に考えを共有させることで、安心して意見の交流ができる。そうすることで、全体での意見交流で、発表する児童が多くなることを期待される。



☆友達の意見を参考にさせる

考えがまとまった何人かの児童に、自分の考えを発表させる。全体に向けて「この中で自分の考えに近い人は誰？」と声掛けをし、選択をさせる。何を書いたらいいかわからない児童は、自分と友達の考えを比べながら選択することができ、自分の考えを記述しやすくなる。

【実践を振り返って】

教材をスライドショーにして提示することで、内容の理解が深まり、意見交流が活発に行われていた。終末の考えをまとめることが難しかった児童に対しては、友達の考えの中から選択させたことで、児童は「この考えに近いなあ」「この意見はよく分かる」と言いながら意見交流をし、自分の考えを明確にすることができた。

【教材名】 手品師（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）


【ねらい】 大舞台での活躍と幼い子どもと交わした約束との間で迷った手品師の姿を通して、「誠実に生きる」とはということかを考えさせ、自分自身に誠実でいようとする心情を育てる。

【教材の概要】

手品師は、町で男の子に手品を見せた。男の子に明日も来ると約束した。

その日、友人から大劇場に出演できると言われるが、男の子との約束を選んだ。

翌日、たった一人の男の子を前にして、約束通りすばらしい手品を演じた。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・教材の話の内容が分からない	☆ワークシートで物語の内容を確かめる
考えを表現する際	・登場人物の心情について自分の考えを話すことが不安、または苦手	☆キャラクターを活用する

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

T：誰かと約束したのに、守れなかったことはありますか。

C：友達と遊ぶ約束をしていたが、断って別の友達と遊んだ。その友達が一人で遊んでいるのを見て心が痛くなった。

展開

T：男の子との約束を選ぶ手品師と、自身の夢を選ぶ手品師に、自分ならどうやって声を掛けるか、キャラクターを通して考えよう。

C：「はてにゃん」なら「大舞台はめったにないチャンスだよ」と言うと思う。

C：自分なら男の子との約束を守ってほしいと思う。

終末

T：「誠実に生きる」とはどんな生き方だと思いますか。

C：自分がした約束を大切に生きていくことだと思う。

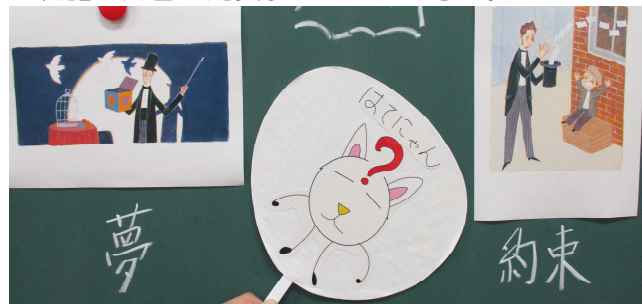
☆物語の内容を確かめるワークシート

児童が選択肢を選びながら、無理なく物語の内容を確認することができていた。

- 手品師は、どんな暮らしをしていましたか。
 - { 生活するのに特に困らない暮らし ・ パンを買うのもやっというくらい余裕のない
 - 手品師の夢は何でしょうか。
 - { 大きな劇場で、はなやかに手品をすること ・ 全国の小さな劇場をより多く回ること
- <<ある時、手品師は町で男の子に出会います。>>
- 手品師に出会ったとき、男の子はどのような様子でしたか。

☆キャラクターを活用する

キャラクターを通して、登場人物の心情に迫る物語の内容を発表することができる。



【実践を振り返って】

児童からは「物語の内容がよく理解できた」との声が聞かれた。また、手品師が二つの選択肢の間で揺れるとき、キャラクターを通して、自身の夢を優先したい気持ちと男の子との約束を守りたい気持ちの両方を理解させることもできた。物語の内容を考えながら、登場人物の心情に迫ることで、手品師の心情について自分の考えを記述しやすくすることができた。


【教材名】 気に入らなかった写真（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）
 【ねらい】 友達と遊んだ写真を載せたお姉さんの行動と悩みを通して、インターネットを利用するときに気を付けることについて考えさせ、他者の権利を守ることを大切にしようとする判断力を育てる。

【教材の概要】

お姉さんはスマートフォンで友達との写真をインターネット上に投稿した。

友達からは喜んでいるメッセージが来るが、数日後、ある友達から削除を頼まれる。

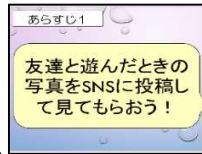
喜んでいる友達と怒っている友達の板挟みとなり、お姉さんはどうするか、悩んでいる。

	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援 
教材を理解する際	・教材の内容が理解しにくい	☆スライドを流し、あらすじを把握させる
考えを共有する際	・共有するのに時間がかかる	☆ロイロノートを活用し、共有させる
考えを表現する際	・考えを書くことが苦手である	☆「視点カード」を使い考えやすくさせる

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>
導入
 T：自由とはどんなことでしょう。
 C：誰にも邪魔されないような感じ。
 C：自分勝手にやりたい放題できる。
展開
 T：どうして「お姉さん」は、悩んでいるのでしょうか。
 C：写真を見て、喜んでほしいのに、喜んでくれない人がいるから。
 T：写真を投稿する前に気を付けなければならないことは何でしょう。
 C：私だけが満足しないようにすることが大切じゃないかな。
 C：写真を投稿していやだと思ふ人のことを考えて、事前に許可をとることが大切。
終末
 ○ 個人情報 を SNS に載せる際に大切にしたいことを考えさせる。

☆スライドを流しあらすじを把握させる



本教材はイラストが多数あったため、登場人物ごとに整理して流す。要点をまとめることで理解が進む。

☆「視点カード」を使い考えやすくさせる

考えを書くことが苦手な児童に対し、視点カードで「誰の視線で考えるか」という視点を与えて、考えやすくさせる。また、友達と相談し、自分は誰の視点の考えかを指摘し合い、自分の考えを明確にすることができる。

【視点カード】

- ・自分のため…赤
- ・友達のため…黄色
- ・自分と友達のため…緑
- ・まわりのため…青

☆ロイロノートを活用し、効率よく共有させる

自分の考えをグループで話し、出された考えをロイロノートに書き、提出機能を使い共有する。誰の視点か分かるように、色を指定して提出させた。発表する時間を短縮でき、終末のまとめの時間を確保することができる。

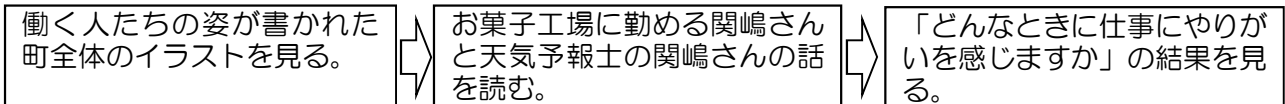
【実践を振り返って】

お姉さんの悩みから、お姉さん視点だけではなく賛成する友達の視点、反対する友達の視点など、多くの視点から、「情報を SNS にアップロードすること」について考えをもつことができた。実際に SNS を利用している児童は多くなかったが、「自分ならどうするか」について意見を交流させたことで、今後 SNS を活用する際に気を付けていこうという思いを高めることができた。

【教材名】 「働く」ってどういうこと（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）

【ねらい】 「関嶋さん」と「宇都宮さん」の働く喜びが何かを考えるを通して、働くことが、自分自身や周りの人たち、社会のためになっていることに気づき、自分も公共のために役立とうとする実践意欲と態度を育てる。

【教材の概要】



	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援
教材を理解する際	・働くことへのイメージが捉えにくい	☆イラストやアンケートを活用する
考えを共有する際	・考えを整理して伝えることができない	☆シンキングツールで分類する
考えを表現する際	・実際に自分が働く姿が思い浮かばない	☆身近な場面を写した写真を活用する

【実践について】(C…児童 T…教師)

<授業の流れ>

導入

○ イラストとアンケートを見て、働くことへのイメージを捉える。

展開

T：二人のどのようなところに魅力を感じていますか。

C：努力がみんなのためになっている。

C：好きなことができている。

C：重圧に負けずに続けているところ。

T：働くことで喜びを感じることができるのはなぜですか。

C：自分以外の人たちのためにもなるから。

C：自分自身がうれしい気持ちや達成感を得ることができるから。

終末

T：今日の学習で考えたことをまとめましょう。

C：普段何気なく行っている委員会活動でも、学校のために、自分やみんなのためにできることがあると思った。

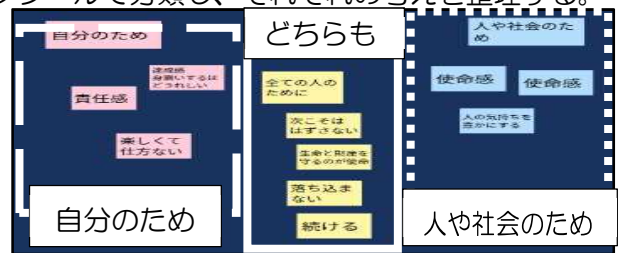
☆ イラストやアンケートを活用する



事前にとった「働くことへのイメージアンケート」の結果や働いている人のイラストを見せ、働くことに対する自分の考えをもたせる。

☆ シンキングツールで分類する

二人の魅力がどのように生かされるか、シンキングツールで分類し、それぞれの考えを整理する。



☆ 身近な場面を写した写真を活用する



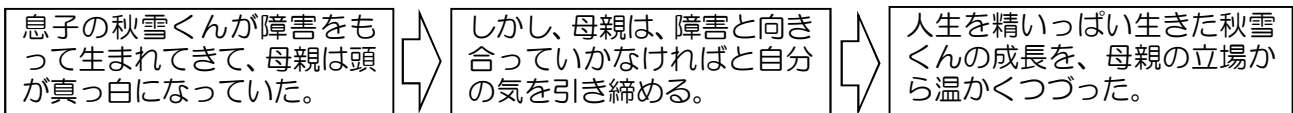
学校生活の場面で働く人たちの思いが感じられそうな場面を写真で提示し、本時で考えたことを今後生かしていこうとする雰囲気にする。

【実践を振り返って】

働く人たちが「自分ため」「人や社会のため」など様々な思いをもって仕事をすることで、喜びを感じることに繋がっていると感じさせることができた。終末で、具体的な場面の写真を提示することで、自分たちの活動でも働く人たちと似ていることがあることに気付かせることができた。

【教材名】 たったひとつのたからもの（出典：中学道徳2 とびだそう未来へ 教育出版）
 【ねらい】 秋雪くんの生き方や、それを見た両親の思いを考えるを通して、生命が関わり合っていることや生命はいつか終わることに気付かせ、生命を尊重しようとする心情を育てる。

【教材の概要】



	学級の子どもの困り感	道徳科における個別最適な支援
教材を理解する際	・短時間で教材を理解しにくい	☆事前読みを行わせる
考えを共有する際	・考えの視点が分からない	☆考えのまとめ方を選択させる
考えを表現する際	・グループで上手に話せない	☆トーキングアイテムを活用する

【実践について】(S…生徒 T…教師)

<授業の流れ>

導入
 ○ 「なぜ生きるのか」について、自分たちの今の考えを話し合う。

展開
 T：秋雪くんは、どのような思いで生きていたと思いますか。
 S：苦しいときもあったけど、毎日楽しい。
 S：おもしろいことがある。
 T：秋雪くんの「生きる」ということを、両親はどう思っていたでしょうか。
 S：幸せな姿を見たい。
 S：笑顔にしたい。
 S：楽しく過ごしてほしい。
 S：良い人生を送ってほしい。

終末
 T：「生きる」とはどういうことでしょう。
 S：限りある人生を、精一杯生き抜くこと。
 S：命があること自体に感謝して生きること。

事前読み ☆事前読みを行わせる たり言葉の意味が理解できない場合に調べたりすることができるため、教材を理解しやすくなる。

☆考えのまとめ方を選択させる

複数の思考ツールや表から自分のまとめやすいものを選択させ、テーマに対し自分や友達の考えが複数あることに着目させる。

☆トーキングアイテムを活用する

ぬいぐるみを活用し、「トーキングアイテムの考え」として、自分の考えを話す。自己投影することで、自分の意見を言うことが苦手な生徒も話すことができる。

【実践を振り返って】

事前読みをさせたことで、授業開始に多くの生徒が教材の内容を理解しており、より多くの視点で考えさせることができた。また、自分で選んだ形式で考えをまとめることで、きることにについてより自分自身と関わらせて考えることができた。トーキングアイテムは、中学生にとっても有効であった。

V 授業づくり研究部会のまとめ

(1) 成果と課題

本部会では「誰もが安心して考えることができる道徳科の授業—実態に応じた個別最適な支援を通して—」をテーマに、道徳科における、困り感に応じた支援についての研究を進めてきました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

【成果 (○)】

- 教材を理解する際に、視覚的な支援や教材の言葉を分かりやすくする支援などを行ったことで、子どもたちは、安心して登場人物の気持ちを考えることができたと考える。
- 考えを共有する際に、ICTによる支援などによって考えを比較しやすくしたことで、短時間でも多くの仲間の考えを理解でき、子どもたちは「自分のことを分かってくれる」と感じ、安心して学習に取り組むことができたと考える。また、教師も、一人一人の考えを把握することで、意図的な指名を行うことができ、多面的・多角的に考えるための話し合いを、効果的に行うことができたと考える。

【課題 (●) と改善点 (→)】

- 授業の展開では、表情絵や思考ツールなど、様々な支援を行うことで、多くの子どもが自分の考えを表現することができた。しかし、終末において、自分自身と関わらせて考える上では、有効な支援がやや少なかった。
 - 自分自身のことと関わらせて考えるためには、子どもたちの学校生活と関わらせることが有効な支援となると考える。終末に表現したことを交流する時間を十分に確保し、そこで安心して自分のことを表現することができるような交流方法や支援を考える必要がある。
- 子どもの困り感の実態に応じた支援を取り入れたが、支援の種類が多くなりすぎて、途中で思考が途切れてしまう様子が見られた。
 - 計画的に支援を組み合わせる授業に取り入れたり、表現方法を複数提示して選択させるような機会を増やしたりすることで、より学習に対する安心感を生み出すことができる授業をつくり上げる必要がある。

<部員の声から>

教師が、教材の理解が苦手な子どもに視覚的に分かりやすい支援を行うことで、子どもたちは物語の流れを理解し、積極的に考えるようになりました。



表情絵やスケールなどの支援を取り入れたことで、考えを表現することが苦手だった子どもが、自分の表現しやすい方法で考えを表すことができようになり、安心して話し合いに参加するようになりました。

(2) 今後の方向性

本年度は、「誰もが安心して考えることができる道徳科の授業—実態に応じた個別最適な支援を通して—」をテーマに、道徳科における、困り感に応じた個別最適な支援を取り入れた研究を行いました。その中で、子ども一人一人の実態を把握した上で、その実態に対する有効な支援を常に考えながら、授業づくりをしていくことが重要であるということを改めて感じました。今後も、子どもの困り感を軽減して、一人一人が安心して取り組むことができる道徳科の授業の研究を進めていきたいと思ひます。

テーマ研究部会

誰もが自分らしい考えをもつことができる道徳科の授業

— 活発な議論が広がる授業展開を目指して —



I テーマ設定の理由

「他者と関わりながら、一人ひとりが自分の考えをもってほしい」という思いで、昨年度、「道徳科における個別最適な学びと協働的な学び」をテーマに研究を行いました。通信機器や思考ツールなどを活用することで、多くの児童の考えを共有することができ、様々な立場や考えがあることに気付かせることができました。また、教師の立場からも、一度に児童の考えを確認することができ、授業展開に膨らみをもたせることができたと感じました。

しかし、自分の考えや友達のを基に議論し、更に新たな考えに気付いたり、友達の考えを取り入れたりするなど、共有した多様な考えを議論に生かすことができなかったことが課題として挙がりました。

そこで、今年度は、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」で生かすことを重視し、授業の中で議論を広げることには焦点を当て、研究を進めていくことにしました。児童が授業の中で、それぞれの考えを共有するだけでなく、活発な議論をすることで、自分の考えを見つめ直し、今までよりも深く考えた自分なりの考え「自分らしい考え」をもつことができる授業を目指していきたいと考えました。

II 活発な議論を広げるために

皆さんは、道徳科の授業をしていて、「議論の広げ方が分からなかった」「時間が足らなくなった」というような経験はありませんか。以下は、実際に部員から出た意見です。



「主人公の気持ちをよく考えてほしい」「価値についてそれぞれの意見の違いについて話してほしい」と考えて発問をしたが、同じような意見が出されてあまり議論にならず、そのまま授業が終わってしまった。



多様な考えはたくさん出されたけれど、「～するといい」等のやり方（方法論）に目を向けた考えばかりになってしまった。

どちらも道徳の授業を行う上で、悩ましい課題です。また、「議論をさせようと考えて実践をすると、時間が足らなくなってしまった」という意見もありました。

ただ、道徳科の授業の中での議論は、「自分らしい考え」を生み出す上で不可欠であり、「議論の広げ方」「議論の時間の確保」の二つの課題を解決していかなければならないと考えます。

そこで、本部会は、「議論の広げ方」「議論の時間の確保」の二つの課題について、研究を進めました。活発な議論を広げるために発問や板書などを工夫した授業展開を考え、実践を行ってきました。

Ⅲ 「活発な議論が広がる」とは

自分らしい考えをもつためには、他者と活発な議論することが必要だと考えます。議論をすることで、自分の考えに深まりが増します。そのため、活発に議論を広げるためには、まずどのような状態が活発な議論が行われている状態なのか考える必要があります。部会において検討をしました。その際、「どのくらい教師が話合いに介入するのか」「自分の考えをどのように表現するのか」など、学年によって違いがあるため、以下のように発達段階に分けて考えました。

部会で定義付けた各発達段階における活発な議論が広がった姿

低学年	自分のことを夢中になって話している 友達の考えに対して、全員意思表示をしている（賛成・反対等）	教師の介入度 高 ↓ 低
中学年	友達と自分の考えを比較して発言している 友達の考えに対して、自分の考えを加えて話している	
高学年	自分の考えの根拠を明確にして意見を伝えている 話合いを通して問いに対する自分の考えをもっている。	
中学校	登場人物の様々な立場を考えながら、考えを言うことができている 生徒同士で話し合うことができている	

また、議論の時間を確保するためには、授業展開においてどこを見直すとよいか話し合いました。そして、議論の時間を十分に確保し、活発な議論が広がる実践を行うために、以下のような手立てを考えました。

タフレットの活用（共有から深化へ） ⇒22ページ

自分の考えを短時間で伝えたり、友達の考えを知ったりすることができるようになった。しかし、それで自分の考えが深まったと言えるのだろうか。共有後に、どんな活動をするとう効果的だろうか。

発問の工夫（全体への問い返し） ⇒24ページ

友達の考えを聞いて「そうだよね、そういう考えもあるよね」と思い、安心感を得て、考えることをやめてしまう。そこから、もう一歩踏み込んで考えさせるにはどうしたらよいだろうか。からの実践をご覧ください。

発問の工夫（行動から心情へ） ⇒26ページ

発問をすると、「こうするとよいと思う」と行動面について考えを発表する子どもたち。どのような発問をすると、行動の基になる心情に目を向けさせることができるのだろうか。からの実践をご覧ください。

導入部分での工夫 ⇒全ての実践に記載してあります。

授業を成功させようと考えれば考えるほど、導入に時間を使ってしまう。導入では、どのような活動を行うことで、活発な議論が広がる授業にすることができるのだろうか。

次ページからは、「議論の広げ方」「議論の時間の確保」を意識して、「誰もが自分らしい考えをもつことができる道徳科の授業」の実践を紹介します。

IV 実践の様子

実践例①

主題名

差別のない社会を求めて

小学6年生

C 公正、公平、社会主義

【教材名】 私には夢がある（出典：きみがいちばんひかるとき 6年 光村図書）

【ねらい】

人種差別の歴史を学び、差別が起こる原因について考えることで、差別になりうる行動や気持ちが身近にあることに気づき、社会的な差別や偏見などに向き合い、正義の実現に努めようとする心情を育てる。

【教材の概要】

マーティン＝ルーサー＝キング＝ジュニアは、ローザの事件を契機に、バスのボイコット運動を呼び掛けた。

マーティンたちは、非暴力を貫き、権利を求める運動は国中に広がった。

現在でも、世界中に様々な差別が広がっている。マーティンの夢の実現は、私たちに掛かっている。

【本時の終わりに期待される具体的な児童の姿・考え】

はじめ、自分は差別をしないと信じていましたが、今は自分も気を付けないといけないと思うようになりました。今日の学習で、身近に差別の原因があることが分かりました。差別につながる気持ちになったことがあるので、気を付けて生活したいです。

議論を生み出すための工夫

【話し合う視点】

度合

…言動とのつながりが強いか弱い

原因

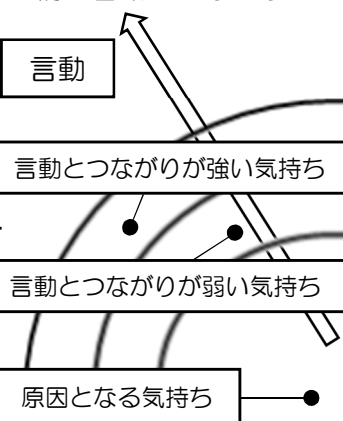
…そうしたの、なぜか

原因とのつながり

…このまま続くと、どうなるか

【思考ツール】

心情と言動のつながり



話し合う視点を意識して考えを伝え合い、さらに思考ツールで、それぞれの考え方の関係性やつながりを視覚的に整理することで、核心に迫ろうとして議論が活発になる効果が期待できる。

また教師が初めに、話し合う視点を意識しながら、児童の考えを引き出す活動を手本として見せることで、話し合いの仕方を理解させることができる。

全体の授業構成や気を付けること

- 教材を読んだ状態で授業に臨むことで、考えたり議論したりする時間を確保する。
- ロイロノートを活用し、考えを素早く共有することで、話し合いの時間を確保する。
- 話し合う視点を意識させるようにする。

導入

- 教材内容とマーティンさんの夢を確認する。
- 白人と黒人で差別が起こってしまった理由を考える。

発問：白人が黒人を差別したのはなぜでしょう？

- C：見た目の違いがあった。
- C：理由をつけて、自分たちが上に立ちたい。

展開

議論のテーマ：差別が起こる原因

発問：差別は、なぜ起こるのでしょう？

- ロイロノートを使い、全体で考えを共有する。
- 議論の視点と思考ツールを用い、差別が起こる原因について出された意見を基に話し合う。

発問：「自分が上になりたい」は、どのへんかな？

C1：外側に近いところかな。

発問：なぜ人よりも上に立ちたいのかな？

C2：本当の自分は弱いから。

発問：人よりも上になりたいという思いが続くと？

- C3：相手を見下すようになって、差別になる。
- 同じように、グループで差別の原因を議論する。その後、全体で考えを共有する。

発問：真ん中に「自分が正しい」「安心したい」と書いてあるけど、これは差別？

- C1：差別じゃない！気持ちだよ！
- C2：うーん。
- C3：それを行動に移すと差別につながるかも。

終末

発問：今日の学習での考えの変化は何ですか？

- C1：身近に差別の原因があることが分かった。
- C2：自分は差別しないと思っていたけど、小さな気持ちが差別につながることを知った。

議論を生み出すための工夫

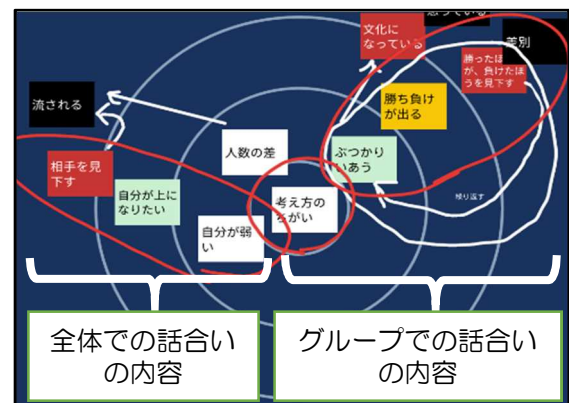
○ 話し合う視点を提示

小グループで話し合う前に、以下の3つの視点を伝えることで、より深い議論を促し、差別の原因についての考えを深めさせる。

- ① 度合…差別の中のどのへん？
- ② 原因…そもそも、なぜ？
- ③ 原因とのつながり…このまま続くと？

○ 思考ツールの活用

ロイロノートの同心円状の思考ツールを使用し、差別についての考えを視覚化させる。内側に差別の原因となる考え方や気持ち、外側に差別となる言動となるようにテキストを貼る。



○ 小グループでの議論

4人で話し合わせることで、一人ひとりの意見を反映させやすくする。



【実践を振り返って】

自分自身との関わりで深めたか

話し合いを基に、差別の原因が身近にあることに気付いたことで、自分自身を振り返り、差別をなくそうとする気持ちを高めることができた。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展したか

小グループで思考ツールを活用した話し合いをさせたことで、差別が起こる原因となる気持ちや、その気持ちが続くとどうなるかを考えさせることができた。このような話し合いにより、差別の原因を様々な視点から捉えさせたり、「身近にもあること」「誰もがもつ人間の弱さも原因になることもある」という考えをもたせたりすることができた。

実践例②
主題名

気高い生き方

中学3年生
D よりよく生きる喜び

【教材名】 カーテンの向こう（出典：とびだそう未来へ 3年 教育出版）

【ねらい】

ヤコブのとった行動について考えることを通して、人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、誇りある生き方をしようとする心情を育てる。

【教材の概要】

病気に侵される中、私の唯一の楽しみは、ヤコブにカーテンの隙間から見た外の様子を聞くことだった。



私は、窓の外を見たいが窓が遠く、見ることできないため、窓に近いベッドに横たわるヤコブを憎らしく思っていた。



ヤコブが亡くなり、私はヤコブのいた位置にベッドが移った。そして窓の外を見たが、私が見たものは壁だった。

【本時の終わりに期待される具体的な生徒の姿・考え】

はじめはヤコブの行動に良い印象をもてませんでした。しかし、ヤコブが自分もつらいはずなのに、周りの人を明るくしようと行動しており、人として立派な生き方だと感じました。誰かのための行動が、自分の喜びになっているのが誇らしい生き方なのだと思います。

議論を生み出すための工夫

- 主題に関するアンケートを実施する。
本時の主題について「〇〇とは何か」と事前に考えさせ、アンケートで回答させる。
⇒授業の始まりから主題への意識が高まる。
- 様々な視点から考えさせる。
場面が変わる際に、主人公から他の登場人物へ視点を変えて発問する。
⇒多面的に考え、多様な考えが生まれる。
- 中心発問に対する意見をグループで考えさせる。（議論Ⅰ）
⇒自分の考えと周りの考えの共通点や違いに気付く。
- 議論を深めるための問い返しの発問について、話し合わせる。（議論Ⅱ）
全体で出た意見を踏まえて、「私だったら」「なぜそう思ったか」などと問い掛け、議論Ⅱを行わせる。問い返しの発問は複数用意する。
⇒議論Ⅰよりも前のめりに意見を出す姿が見られたり、議論が深まりやすくなったりする。

全体の授業構成や気を付けること

- ・ 事前にアンケートを実施したり、教材文を読ませたりすることで、「考え、議論する」時間をしっかりと確保する。
- ・ ダイジェスト版のスライドを活用して、教材の内容を理解させる。

導入

○「誇りある生き方」についてのアンケート結果を見る。

展開

○「私」の気持ちについて考える。

発問：「私」は、ヤコブの話聞いて、どのような気持ちでいたろうか。

S1：希望が見えて、ありがたい。

S2：外が見えていいな。

発問：ニコルの申し出を無視し、場所を変わろうとしないヤコブを見て、「私」はどのような気持ちでいたろうか。

S1：ちょっとぐらいいいよね。

S2：なんで独り占めするの。かわいそう。

議論のテーマ：ヤコブの行動の理由

○ヤコブの気持ちについて考える。

発問：ヤコブはなぜこのような行動をしていたのだろうか。（中心発問） **議論Ⅰ**

S1：部屋の雰囲気明るくしたいから。

S2：夢や希望を与えたいから。

発問：ヤコブも病気で大変なのになぜできるのか。 **議論Ⅱ**

S1：確かに辛いけど自分のことよりもみんなに優しくしたい。

S2：自分を犠牲にしてもみんなを明るくしたい。

終末

発問：「人として」誇りをもてる生き方について、考えを書いてみましょう。

S1：自分の行動が誰かのためになる生き方。

S2：他者のために生きながら、最後に自分が正しかったと思える生き方

議論を生み出すための工夫

① 主題に関するアンケートを実施する

「あなたが思う誇りある生き方とは」というアンケートに対する生徒の回答を見せることで、「生き方」に対する意識を高める。

- ・後悔をしないこと
- ・やましいことが一つもない生き方
- ・人に頼り頼られる生き方
- ・夢や目標に向かって進む生き方
- ・他人のことを真剣に考え、行動に移すことができる

【アンケートに対する生徒の回答の一部】

② 様々な視点から考えさせる

最初の場面では、「私」に視点を置くことで、人間の醜さの部分をつえさせる。その後、ヤコブに視点を移して考えさせることで、ヤコブの行動を多面的につえさせ、多様な考えを生む。

③ 中心発問に関する意見をグループで考えさせる(議論Ⅰ)

ホワイトボードにまとめさせることで、考えの共通点や違いに気づきやすくする。

- ・同じ部屋の皆に希望を与え続けるため。
- ・先代の窓側の人も同じことをしていたから。
- ・みんなを悲しませたくなかった。
- ・ヤコブ自身も自分で想像した世界に希望を与えられていた。

みんなの楽しみも
自分が現実逃避をするため
変化もない部屋に
皆の心の中にも希望のため、憧れを感じてたから
希望を元気を与え
たから、だから。

【生徒が考えをまとめたホワイトボード】

④ 議論を深めるための問い返しの発問について、話し合わせる(議論Ⅱ)

議論Ⅰで考えたことをグループごとに発表させ、発表された考えに問い返しを行うことで、議論Ⅱで、各グループの考えも踏まえた話し合いができるようにする。

ヤコブ自身も病気で大変なのに、なぜみんなのために思った行動ができるのか。

辛いのにやり続けるのはなぜか。

【生徒の考えに対して行った問い返し】

【実践を振り返って】

自分自身との関わりで深めたか

「生き方」について見つめる場面が三回ある。一回目はアンケートのとき、二回目は「ヤコブ」の「生き方」について考えているとき、三回目は終末で振り返りを行うときである。「生き方」とは「楽しむ、自信をもつ」などの考えから「ヤコブ」の他者のために生きる「誇りある生き方」の議論を通して、「自分の行動が誰かのためになり、自分も人も幸せにできるような誇りある生き方をしたい」などと「生き方」に関する視野を広げることができた。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展したか

誇りある生き方を「希望」という言葉を使っていた生徒は、議論を通して「他者のために生きながら、最後に自分が正しかったと思える生き方」と考えを変容させることができた。

実践例③

主題名

気持ちを伝え合って

小学3年生

B 相互理解、寛容

【教材名】

水やり係（出典：きみがいちばんひかるとき 3年 光村図書）

【ねらい】

同じ水やり係の友達が、水やりを忘れていないかと疑う「わたし」の姿を通して、相手の考えや行動の背景を理解しながら自分の考えを伝えようとする実践意欲を育てる。

【教材の概要】

「わたし」が学級園に立ち寄ると、土がかわいていたため、ゆうかにはらを立てる。



なかよしのふみさんに自分の思いをぶつけると、「ゆうかさんは用事がある」と言っていたと聞く。



みつきくんの「聞いてみる」という意見に納得し、ゆうかにどのように声を掛けたらよいか考える。

【本時の終わりに期待される具体的な児童の姿・考え】

友達に考えを伝えるときには、決めつけるような言い方をせず、相手のことも考えて伝えることが大切だと思いました。これからは、相手にしっかり話を聞いてから、自分の思っていることを伝えたいです。

議論を生み出すための工夫

- 登場人物の言動を選択式にする

「主人公は、どのようにするとよかったですか」という発問に対し、自由に発言させると、「話をしっかり聞く」「相手のことを考える」などの表面的な意見が多く、議論が深まりにくい。そこで、発問の答えになる選択肢を教師が3つ用意する。そうすることで、議論の内容が逸れることなく、考えを深めさせることができる。また、自分の考えをもたせやすくなり、児童一人ひとりを議論に参加させることができると考えた。

- 「立場カード」の活用

座席班での話し合いでは、自分の意見を言うだけで、話し合いにならないときがある。また、自分の意見に自信がなく、話すことができない児童もいる。そこで、立場カード（3色の色画用紙）を用意し、自分の立場を明らかにさせることで、自分と同じ立場の人と話し合いをさせることができ、自分の意見に自信をもたせ、活発な議論ができると考えた。



【立場カードを用いて同じ立場同士で話し合う様子】

※ 上記の手立てを同じ場面で組み合わせて行うことが重要である。

全体の授業構成や気を付けること

- ・ 事前アンケートを取り、導入でその結果を提示することで、議論の時間を確保する。
- ・ 授業の始めと終わりに同じ発問をすることで、考えの変容を捉えやすくする。

導入

- 事前アンケートの結果を提示する。

T: 友達に自分の考えを伝えるときにどんなことに気を付けますか。

- C: 言葉遣いに気を付ける。
- C: 強く言わず、優しく言う。
- C: 相手の顔を見て、聞こえる声で。

展開

(1) ゆうかについて

発問: ゆうかさんは、本当に「ひどい」人ですか。

- C: 用事があったからひどくない。
- C: でも、用事があるって伝えてないからなあ。
- T: そもそも、用事は本当にあったのかな?
- C: う〜ん。

(2) わたしについて

議論のテーマ: わたしに必要なこと

発問: わたしは、ゆうかにどんな言葉を掛けるとよいでしょう。

- 3つ選択肢を提示し、「立場カード」を用いて対話する。

- C: (①を選ぶ) 二人で仲良くなれそう。
- C: (②を選ぶ) 理由が分かり、解決できそう。
- C: (③を選ぶ) 相手のやる気を引き出せそう。
- C: (③を選んだ人が②に対して)
これだと、決めつけている感じがする。
- C: (②を選んだ人が③に対して) これだと、聞きたいことが聞けない気がするよ。

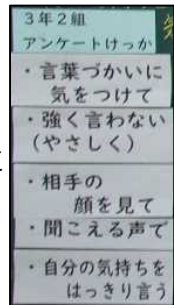
終末

- 教師の説話を聞く。

全体の構成や気を付けること

- 事前アンケートの実施

事前にアンケートの結果を導入で提示する。自分がアンケートに記入したものには「緑」、大切だと思った意見には「黄」のカードを示させ、意思表示をさせる。アンケートの掲示により、テンポよく導入を進めることで、「友達に自分の考えを伝えるときにどんなことに気を付けるか」についての初めの考えを確認させる。

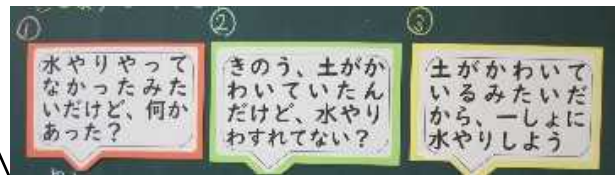


【アンケート結果】

議論を生み出すための工夫

- 登場人物の言動を選択式にする

「わたし」がゆうかに掛けた言葉を考える場面で、3つの選択肢を提示して選ばせる。言葉を選んだ理由を話し合うことで、自分の考えを伝えるときに大切なことについて考えさせる。それぞれの立場から選んだ理由を出させることで、活発な議論ができるようにする。



【板書に示した3つの選択肢】

- 「立場カード」の活用

3つの選択肢のうち、どの言葉を選んだかが視覚的に分かるように、3色の「立場カード(オレンジ・緑・黄)」を活用する。全体で話し合う前に、同じ色同士で話し合わせることで、自信をもって発言できるようにする。



【立場カードを用いた様子】

【実践を振り返って】

自分自身との関わりで深めたか

登場人物の言葉を考える活動で、言葉を選択式にしたことにより、「自分だったらどの言葉を掛けるか」と考えやすくなった。更に、自分の考えを伝えるときに自分が大切にしたいと思っていることが明確になり、友達に熱心に伝える姿が見られた。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展したか

記述には「相手の行動の理由を知ってから伝える」「決めつけるような言い方をしない」といった内容が見られた。3通りの言葉から考えることで、その言葉を選んだ理由について多様な考えを引き出すことができた。また、立場カードを活用したことで、自分の立場が明確になり、自信をもって全体の場で考えを発表する児童が多く見られ、活発な議論につながった。

V まとめ【○：成果、●：課題、→：改善点】

1 成果と課題

本部会では「誰もが自分らしい考えをもつことができる道徳科の授業」をテーマに研究を進めてきました。その結果、次のような成果と課題が明らかになりました。

- タブレット等を使い、児童の考えを共有した後にそれらの考えをグループごとに議論しながら分類することで、考えが整理され、自分らしい考えをもつことができた。
- 発問に対する考えを選択させることで、行動面ではなく、心情面に目を向けて議論させることができた。
- グループでの話し合いをした後、全体に人間の弱さに関わる発問をして再度グループで考えさせたことで、活発な議論に広げることができた。

- 事前に教材を読ませることで、議論の時間を確保することができた。しかし、学習までに時間が空いてしまったり、読むだけで終わってしまったりしたため、教材の内容理解に差が出てしまった。(小学校)
 - 事前に教材を読ませることも大切だが、授業時間内に教材の内容をスライドにしてダイジェストで提示するなどの活動を取り入れることで、教材理解を十分に行うことが重要である。
- 議論の時間を十分に確保したため、時間を使って議論を深めている場面もあったが、ねらいからそれと盛り上がっている場面も見られた。(中学校)
 - 教師の介入が無くても話し合い自体は進めることはできるが、どのくらい、どのタイミングで介入するのか、さらに話し合いの仕方を吟味し、介入することで再度議論をさせることが重要である。

<部員の声から>

子ども同士で質問をし合えるグループでの話し合いをしたことで、活発な議論となり、自分の考えを膨らませることができました。



選択型の発問にして、選択した理由を語らせることで、方法論に偏ることなく、話し合いを進めることができました。

事前にアンケートを取り、テンポよく導入を進めることで、話し合いを行う時間を確保することができました。



2 今後の方向性

児童の実態に応じて様々な手立てを講じることで、昨年度の「考えを共有することに留まり、協働的な学びに生かすことができなかつた」という課題を改善し、活発な議論になり、自分らしい考えをもたせることにつながりました。また、事前に子どもの発言を予想し、問い返しの発問を準備しておいて問い返すことで、児童の中で「あれ？」という意識が生まれ、再度発問に対して自分の考えを見つめ直す姿が見られました。今後は、授業の初めから「あれ？なぜだろう？考えてみたい」と問題意識をもって考え、積極的に友達と意見を交わし、授業が終わっても考え続けたいと思えるような道徳の授業を意識した実践を考えていきます。

本年度のあゆみ

月	日	授業づくり研究部会	テーマ研究部会	合同学習会
5	10	研究部員総会		
5	17	子どもの困り感を みんなで共有しよう	議論するための教材に ついて話し合おう	情報モラル教育と関連 させた道徳科の授業
6	7	子どもの困り感とそれに 対する支援を考えよう	議論を生み出す 手立てを考えよう	「考えたい」と思わせる 導入のアイデア
7	6	公開授業指導案事前検討(両部会合同)		
9	6	困り感に応じた支援を 取り入れた授業案を考えよう	自分らしい考えをもつことが できる授業案を考えよう	深い学びにつなげる ための発問の工夫
9	21	困り感に応じた支援を 取り入れた授業から学ぼう (模擬授業形式)	実践を振り返り 成果と課題を見付けよう	子どもも保護者も一緒に考え ることができる道徳科の授業
10	21	公開授業事前検討会(授業者による模擬授業)		
10	28	授業づくり研究部会 授業研究(公開授業)		
11	2	成果と課題を生かした 困り感に応じた支援を考えよう	成果と課題を生かした議論を 生み出す手立てを考えよう	人権教育と関連させた 道徳科の授業
12	15	部会内実践発表会をしよう	部会内実践発表会をしよう	「考え、議論する」 ための書く活動
1	11	研究発表会の準備	研究発表会の準備	終末のひと工夫 (授業の終わり方)
1	17	研究発表会リハーサル		
1	24	研究発表会		
2	15	来年度の実践に向けて 話し合おう	来年度の実践に向けて 話し合おう	防災教育と関連させた 道徳科の授業

※ 1月以降については、予定が掲載されています。

令和4年度 合同学習会

「合同学習会」とは、授業づくり研究部会と、テーマ研究部会の両部会が集まって道徳について学習する会です。本年度は、毎回異なるテーマを設定し、部員が行った授業について紹介し合い、道徳科の指導方法について学習を行っています。

第1回（5/17）

情報モラル教育と関連させた道徳科の授業

近年話題になっている情報モラル教育と関連させた道徳の授業について学習をしました。スマートフォン等の情報機器を使った他者との関わり方、使い方などの危険性について考えることは大切です。しかし、子どもに制限を掛けるだけではなく、なぜSNSが普及したのか、そのきっかけについて子どもに考えさせることが、情報モラルについて主体的に考えを深めさせることができるということを学びました。

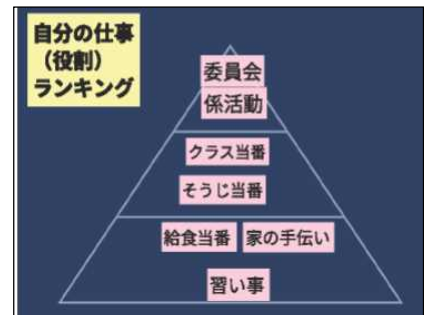


【合同学習会の様子】

第2回（6/7）

「考えたい」と思わせる導入のアイデア

子どもが「今日の道徳、一生懸命考えたいな」と思えるような導入でのアイデアについて学習しました。ロイロノートを活用した導入や教材に関わる具体物を使った導入が紹介されました。自己を振り返り、本時の学習に入ることは大事ですが、子どもがマイナスのイメージを抱いてしまったら、「考えたい」と思いづらくなってしまいます。「どうしてだろう、違うのかな」と問題意識をもたせることの大切さを学びました。



【シンキングツールの活用】

第3回（9/6）

深い学びにつなげるための発問の工夫

子どもの深い学びにつなげるための発問の工夫について学習しました。そもそも発問の機能とは何かということや、よい発問の条件、発問の改善の視点などが紹介されました。それらを踏まえ、グループごとに選択した教材にあった発問の工夫を考え、全体で共有しました。子どもに問題意識や疑問をもたせ、多様な感じ方や考え方を引き出すことができるよう、発問の意図を教師が明確にもつことが大切であることを学びました。

資料活用類型	主たるねらい	発問の例
範例的活用	主人公の行為や考えを手本や範例とさせる。	・〇〇はどんな考えからそうしたのか。 ・〇〇が～したのはどんな気持ちからか。
共感的活用	主人公の立場になって考えさせる。	・〇〇はどんな気持ちか。 ・〇〇の心の中はどんな気持ちか。
感動的活用	感動を大事にした価値把握をさせる。	・一番心を動かされたのはどこか。 ・なぜそこが心に残るのか。
批判的活用	主人公の行為や考えを批判させる。	・～したことをどう思うか。 ・〇〇はどうすればよかったのか。

【教材活用における発問例】

第4回 (9/21)

子どもも保護者も一緒に考えることができる道徳科の授業

家庭との連携を図る、親子道徳について学習しました。保護者の方に子どもと一緒に考えてもらう多様な方法と、その実践例が紹介されました。子どもだけでは考えられなかった新しい考えや違う視点に気付くことができたり、家庭で道徳的行為を認めてもらえる機会が増えたりと、子どもの道徳性をより高める効果があるようです。また、保護者の協力をどう得るか、学校での取り組みをどう紹介するかなどについても学ぶことができました。

- A 授業の予習 (宿題)
- B 授業の復習 (宿題)
- C 授業参観
- D 個人懇談会
- E 学級懇談会
- F 学級通信

【子どもも保護者も一緒に考える方法】

第5回 (11/2)

人権教育と関連させた道徳科の授業

人権教育と道徳科の授業との関連のさせ方について学習しました。「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」という人権感覚を身に付けるために、道徳科の授業において、「人権教育の手引き」を活用するなどしながら、どの内容項目でも意識することが大切だと感じました。「差別・偏見・ステレオタイプ (固定観念)」を子どもが感じないように、教師も自分自身の子どもへの接し方を改めて見直すよい機会になりました。

6班 6-1人権宣言案

★★★グループ決定案★★★

【条文】

自分の考えを、クラスみんなが堂々とと言えるようにする

【理由】

誰かがいやな顔をしたり、つつこみを入れたりすると、言いにくいこともあるので、誰でも考えを堂々と発表できるようになってほしいから。

【子どもが考えた学級における人権宣言】

部員さんの声

☆ 他の先生の実践を聞くことで、とても参考になります。みなさん、アイデアが豊富で、このように授業を進めると、子どもも笑顔いっぱいになったり、ときには迷い悩んだり、課題に対して真剣に向き合っている姿が目に見えます。明日からの教材研究が楽しみになります。

☆ 他の先生の実践を学級の実態に合わせてやってみると、子どもの反応がとてもよかったです。ちょっとしたひと工夫で授業が大きく変わるのだなと実感しました。

☆ 今後の合同学習会の予定 ☆

- 第6回 12月 15日 (木) 『『考え、議論する』ための書く活動』
- 第7回 1月 11日 (水) 「終末のひと工夫 (授業の終わり方)」
- 第8回 2月 15日 (水) 「防災教育と関連させた道徳の授業」

道徳科についてのQ&A

Q1 発言する児童生徒に限られます。どの子どもからも発言を引き出すアイデアはありますか。

【誰もが発言しやすい雰囲気づくりが最重要！】

学級経営に関わることでもありますが、道徳の授業だけでなく、全ての場面において、学級の子どもが誰の意見も同じように聞き、尊重できる雰囲気がとても重要です。どの子どもからも発言を引き出すアイデアがあっても、この雰囲気がなければ、うまくいきません。まずは、このような学級経営がベースにあることを忘れずに、下記のようなアイデアを取り入れてみてください。

【机間指導で】

- ・机間指導で、ワークシートの記述内容を確認し、意図的に指名する。
- ・机間指導で、ワークシートに線を引いたり○を付けたりたりする。
⇒児童に自信をもたせ、発言を促す。
- ・発言したことを板書し、ネームプレートを貼る活動を繰り返し行う。
⇒自分の発言が認められた喜びが増え、発言も増える。

【発問の工夫】

- ・誰でも答えやすいような発問を考えておく。
例：立場を選択させて、理由を答えさせる。
例：「どれくらいうれしい？」と問い、レベルを体で表現させる。

【発問の構成】

- ・導入は誰でも答えやすい発問にする。
(体育の準備運動や、学級活動のアイスブレイキングと同じ考えで)
- ・同じ発問を繰り返さないようにする。
(理由をずっと聞き続けたり、気持ちをずっと聞き続けたりするのではなく、組み合わせが重要。友達との日常会話のように話せるよう、教師が興味をもって聞いているような雰囲気です。)

Q2 授業の終末では説話をよくするのですが、他にもアイデアはありますか。

授業の終末は、本時で学習した内容に関する気持ちを高めたり、意欲をもたせたりする時間です。今までの実践には、下記のような活動がありました。

【活動例】

- ・生活にどう生かしていきたいか発表する。
- ・歌を歌う、音楽を聴かせる、写真や動画を見せる。
- ・登場人物や今までの自分に対する手紙を書く。
- ・導入で考えたことや、本時のテーマに対する自分の考えを発表する。
- ・本時の学習の感想を発表し合う。
- ・授業の導入で行ったアンケートをもう一度行い、意見の変容を伝える。

Q3 中学校では自分の専門教科に加えて道徳も教えます。しかし、道徳科の授業を行う際に、つい専門教科と同じような展開になってしまいます。中学生に道徳を行う際のこつはありますか。

【展開よりもねらいを意識して】

道徳科の授業にも、他の教科領域と同じく、授業を行う上での「ねらい」があり、本時の終わりに期待される具体的な児童の姿・考えを目指しながら、教科書を基に授業を行います。専門教科の授業の展開が、必ずしも道徳の授業の展開に合わないとは思いませんので、特に気にする必要はないと考えます。

【中学校での道徳で気を付けていること】

- 生徒と同じ目線に立って、話し掛けるような気持ちで授業を進める。
⇒「どう思う？」などと聞き返し、発言をつなげていく。
- 自分の経験や体験を語らせる。
⇒小学生よりも経験、体験が豊富なため
- 「教える」というイメージよりも、みんなで話しながら、「考えていく・解決していく」というイメージをもって、授業をする。

Q4 複数の学年や外国籍の児童が在籍する学級で一斉授業を行うには、教材を選ぶ際にどんなことに注意するとよいですか。

Q5 教材の内容が長いと、内容理解が難しい児童が多いです。教材の内容理解をスムーズに行うための工夫はありますか。

道徳が教科となり、検定教科書が導入されました。そのため、道徳の授業は、教科書を使用して行います。

【特別支援学級で複数の学年がいる学級】

内容項目は、低、中、高、中学校において指導の要点が違います。また、内容項目によっては、一斉授業が難しいものもあると思いますが、一斉授業を行う場合は、児童の実態に応じて、個に応じたねらいを設定した上で、授業の展開を考えることが重要です。そして、ねらいに応じて、個に応じた具体的な支援、個に応じた評価の視点などを整理して授業を行うことが大切です。

【内容理解が難しい児童生徒への支援】

今年度の授業づくり研究部会では、このような児童生徒に対する支援について考えてきました。詳しくは、授業づくり研究部会の実践をご覧ください。

ここでは、研究会に寄せられた道徳に関する質問について、部員で考えたことをまとめました。質問だけで、一冊の会報ができるくらいたくさんの質問が寄せられました。ここで取り上げられなかった質問についても、今後の部会や学習会等で紹介したり部員で話題したりして考えていきます。今後も、授業をする上で浮かんだ疑問などがありましたら、研究会までご相談ください。また、研究会へのご参加も随時受け付けています。お気軽にご連絡ください。よろしくお願いいたします。

あ と が き

2015年の国際サミットにおいて、SDGs（持続可能な開発目標）が世界共通の目標として掲げられました。それを受けて、学校現場でも、様々な教科領域で話題に上げたり実際にできることを考えたりする授業が行われています。

SDGsの詳細として掲げられた17の目標と、道徳科の内容項目を見比べてみると、「自然愛護」「生命の尊さ」「節度、節制」など、共通点が多く見つかります。世界が一体となって実現しようとしている目標の多くは、学校教育や家庭の中で子どもの頃から「大切なこと」と言われ続けてきた内容の延長線上にあるのだと感じ、現在学校で行われている道徳教育で育まれた道徳性が、今後の社会を形成していく上で大変重要なものであることを改めて感じました。

SDGsの17の目標は、素早く簡単に解決する課題は一つもありません。実は、道徳科の内容項目も同じです。すぐにできると考えがちですが、人間の「怒り」「嫉妬」「怠惰」など、誰にでもある人間の感情に負けてしまうことも多々あり、私自身、全ての場面で内容項目の目標通りに行動できているかと問われると、自信をもって答えることができません。では、どうすればよいのでしょうか。

「愛の反対は憎しみではない。無関心だ」（マザー・テレサ）

「人間にとって最大の罪は、他者への憎しみではなく、他者への無関心である」
（ジョージ・バーナード・ショー）

これらの言葉は、先人が残した言葉です。この言葉通り「関心をもつ」という言葉は、道徳教育においても一番大切なことだと思います。今は実現できなくても、常に「関心をもち続ける」ことで、少しでも目標に近付けるはずです。例えば、旅行先で歩いた道にごみが落ちていたら、拾えなくてもそのことに心を痛める。花が咲いていたら、世話をすることはできなくても「きれいだな」と感じる。「目標を常に意識して」と堅く考えるのではなく、日々出会う場面に関心をもち、常に心を動かされることが、道徳的価値の実現に近づくための第一歩だと感じます。

道徳科の授業に関心をもち、本会報に掲載した実践の記録を読んでいたただけたなら、すぐに道徳科の授業に生かすことができるアイデアや工夫に心を動かされたことと思います。校内の先生方に紹介していただくことで、多くの先生方が関心をもち、毎週の道徳科の授業の参考にしていただけることを切に願っております。

最後になりましたが、本研究会に対しまして、格別のご指導、ご支援を賜りました先生方、並びに各関係機関の皆様、心より感謝申し上げます。また、本会報を発刊するにあたり、実践並びに執筆にご尽力いただいた先生方に敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

名古屋市道徳研究会委員長

名古屋市立苗代小学校 尾関 基秀

会報作成協力者

【授業づくり研究部会】

部長 岡田 陽介（宝 小）
副部長 土屋 俊貴（八社小）
部 員 畠山 靖弘（平田小）
杉浦 弘祥（岩塚小）
石原 聖也（新栄小）
三澤 裕紀（御器所小）
池内 秀幸（川原小分校）
青山 拓也（万場小）
岩嶋 敏也（守山小）
松下 恭平（二城小）
大島 佑太（緑小）
石坂 直也（神の倉小）
近藤 さき（大高中）

【テーマ研究部会】

部長 根本 貢太（庄内小）
副部長 水谷 祐基（柴田小）
部 員 豊田 昇平（春岡小）
近藤 志帆（前津中）
倉屋 玲樹（旗屋小）
吉川 慶（戸田小）
静谷 公希（戸田小）
岡田 夏実（豊治小）
野町 若菜（大手小）
久野 嘉子（西築地小）
小島 早織（柴田小）
下平 剛大（守山小）
駒田 麻子（志段味東小）
宮原 宝（苗代小）
伊橋 諒（守山西中）